

くすのき



西合志第一小学校
学校だより 第7号
文責 校長 西村羊治
令和6年4月23日

校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」

令和6年度、1ヶ月が駆け抜けます！

4月も4週目に入りました。朝からわくわくしながら西合志第一小学校に通勤する自分がいます。7時30分ぐらいから子ども達を南門で迎え「おはようございます！」とあいさつすると、元気よく「おはようございます！」と返してくれる子がたくさんいます。とても気持ち良く、外に立っていて



5年 辻教諭

思わずにっこりしている私がいます。また、ほぼ毎日各教室の授業の様子を見て回るのですが、各担任が子ども達への愛情を持ち授業を進め、子ども達がそれに応えるように頑張っている姿を見ているときも、にっこりしている私がいます。



3年 松村教諭

世界に目を向けるとウクライナとロシアの関係、イスラエルとガザ地区の関係、それに関わるようにイランやアメリカ、日本などもです。私は世界の政治情勢に詳しくはありませんが、人を殺し合う戦争は絶対にいけないと思います。世界中で戦争兵器に使用しているお金をもっと別のことに使うことができれば、救える命を救ったり、自然破壊も減らしたりできるのではと考えたりもします。22日の朝テレビを見ていると日本の小学校に外国籍の子がたくさん通っている学校が紹介されていました。その学校の校長先生の話に、肌の色の違いに偏見を持った児童の言動があったことを機に外国籍の子と日本の子との話し合いの時間をもち、子ども達の「困り感」を子ども達同士で共有し、解決策をみんなで考えていくという取組が紹介されていました。その取組によって、外国籍の子の「困り感」がほぼ解消され、日本人の子もインタビューの中で「いろんな国の友だちと会話や交流ができて楽しい」と言っていました。話し合いでみんなの「困り感」を共有し解決していき、いろいろな国の小学生と一緒に支え合ったり、一緒に遊んだりしている映像がとても印象的で、思わずにっこりしている私がいました。

私が思わずにっこりしてしまう共通点は、「人と人がつながりあっている」と感じたときかなと思います。子ども同士が、



1年 栄教諭

子どもと職員が、職員同士が、職員と保護者の方が、保護者の方々同士が等、いろいろな人間関係がありますが、やはり良い距離感で関係がいいなと感じるときです。人間関係とはとても難しいです。人間関係とはとても簡単です。どちらになるかは、その人達の心の中にあるのかもしれませんが、お互いが相手の長所を見て、受け入れ、相手と関わることを楽しんでいけるような人間性を身に付けて、自分にとって、周りの人たちにとって、気持ちのいい時間を共有できればいいなあと考えます。今年度の1ヶ月が駆け抜け、5月がスタートしますが、西合志第一小学校がそのような学校でありますように！



6年 吉田教諭



4年 小林教諭



2年 江住教諭